



でめきん

2026年8月30日

発行

カトリック

大和郡山教会

（大和郡山市城南町）

TEL 0743-52-3268

評議会 広報部会

1頁 被昇天祝日メッセージ

2・3頁 人権について…

4・5頁 人権についての寄稿

6頁 教会歳時記

7頁 流配碑建立100周年事業告知

8頁 被昇天ミサ、信徒消息



聖母の被昇天の祝日おめでとうございます。

奈良ブロック担当司祭(サレジオ会)ブリー・ヨハネ神父

5世紀のエルサレムでは、8月15日にマリアを神を生んだ方「神の母マリア」として祝われていました。6世紀には、マリアの永眠の日として東方教会で祝われるようになりました。これが7世紀に、西方教会でも受け継がれるようになりました。ローマ皇帝マウリチウスは、この祝日を国際日として定めたため、7世紀になるとほとんど全教会で祝われるようになり、8世紀には「聖母の被昇天」と呼ばれるようになりました。

聖母の被昇天 (Assumptio Beatae Mariae Virginis) のローマ教皇ピオ12世のエク・カテドラ（1950年）に宣言によって正式に教義とされた。

ところで、

聖母被昇天の前日8月14日カトリック教会は聖マキシミリアノ・マリア・コルベ神父様（1894-1941年）を記念しています。

コルベ神父は（1930-1936）日本を後にして、ポーランドのニエポカラノフの修道院長に選任され、その後、第二次世界大戦により、ドイツ軍に捕えられ、アウシュヴィッツ強制収容所に送られた。そこで、死刑を言い渡された妻子ある士官の身代わりを申し出て、餓死牢で注射を受けて亡くなった。「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」（ヨハネ15.13）というキリストの愛を実践した現代の殉教者であり、マリア使徒と呼ばれている。

聖ヨハネ・パウロとGajowniczekさんと

コルベと9人の囚人が地下牢の餓死室に押し込められた、餓死牢ではパンも水も与えられず聖母マリア被昇天のお祝いの前日にこの世から旅立った

